

JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council : JAPIC) は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在 37 業種 205 社の企業、地方自治体、団体、NPO 等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC会長
宗岡 正二
Shoji Muneoka
新日鐵住金(株)
代表取締役会長

開設趣旨

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、グローバルな大交流・大競争時代にシフトしています。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジすることを期待します。

主催：神戸大学連携創造本部
サポート：神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先

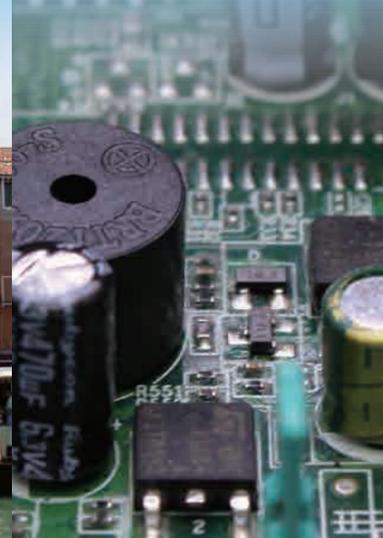
神戸大学研究推進部連携推進課
産学官連携グループ

連絡先電話番号 078-803-5427
E-mail ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

世界に挑む

産業界・官界・政界トップリーダーによる

連続リレー講座 2016



科目名 社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)

**基本
コンセプト**

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、産業界・官界・政界のトップランナーがオムニバス形式で講義します。
今、企業でどんな人材が求められているのか?学生に何を身に付けてほしいのか?
土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

開講日時 平成28年度 第2クォーター 土曜日 10:40~16:40(初日と最終日は 13:20~16:40)

場所 鶴甲第1キャンパス K棟 K202教室

科目区分 総合教養科目(学部1,2年生) / 総合科目I(学部3年生以上)

 **神戸大学**

社会基礎学 平成28年度

※2単位取得(科目区分、卒業要件の取扱いは、学年・学部によって異なります。)

第1回 **6/11(土)** 【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

- パネルディスカッション 第1部 グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は? 第2部 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

門脇 直哉

JAPIC 常務理事

◆プロフィール◆1984年新日鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC。政・官・財・学・マスコミ・NGO等幅広く交流。広島県出身。趣味:テニス、ゴルフ、読書。

中川 順子

野村ホールディングス㈱ 執行役員 グループ・インターナル・オーディット担当

◆プロフィール◆1988年 野村證券(株)入社。奈良支店、人事部、投資銀行部門、財務部門を経験し2004年退社。2008年再入社、子会社の野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー社長。2010年野村ホールディングス(株)財務部門に異動。2011年執行役CFO、2013年執行役員(グループ・インターナルオーディット担当)、現在に至る。★本学出身者

第2回 6/18(土)

現代の金融システム

10:40~12:10

◆講義概要◆金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて具体的にみたま上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

吉村 隆

ゴールドマン・サックス証券㈱ コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター

◆プロフィール◆1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員。趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天網恢恢疎にして漏らさず

日本の未来を切り拓く

～少子化・IT化・グローバル化と我が国の将来ビジョン～

13:20~14:50

◆講義概要◆少子高齢化による人口減少、ビッグデータをはじめとするIT分野の進展、待ったなしで進むグローバル化など、我が国は大きな課題を抱えているが、これらは新たな挑戦のチャンスでもある。我が国の将来を見据え、成長戦略を着実に実行・進化させていくことが不可欠。特に、2020年を節目に、働き方改革、IT政策、TPPなどに重点を置きつつ、大胆な改革を速やかに実行することが重要。こうした我が国の将来ビジョンを示す。

西村 康稔

衆議院 内閣委員長 衆議院議員 自民党TPP総合対策実行本部 事務局長 一徳総活躍推進本部事務総長 中小企業調査会 幹事長 金融調査会 事務局長 IT戦略待命委員会委員長代理

◆プロフィール◆1962年兵庫県明石市出身。神戸大学附属明石中、灘高、東大法卒業。通商産業省入省後、米国メリーランド大学院で国際政治・経済を学び卒業。通商産業省調査官を最後に退官。2003年、初当選。2009年自民党総裁選に立候補。2014年、5期目の当選。外務大臣政務官、党政調副会長、選対事務局長、改革実行本部事務局長等を歴任。2012年12月から2015年10月まで内閣府副大臣として経済再生・経済財政政策・社会保障と税一体改革・健康医療戦略・TPP・PF1-NPO等を担当。趣味:秘境巡り、映画、俳句、茶道。学生時代:陸上、野球、ボクシングなどで活躍。

これからの国土づくりのあり方

15:10~16:40

◆講義概要◆昨今、ゲリラ豪雨の多発等による災害の激甚化や、過去に整備された道路等社会インフラの老朽化など、国土保全に係る諸問題が指摘されているところである。また地域を活性化するために効率的な社会インフラ整備をどのようにすべきかという課題もある。このような状況に対する国土交通省としていかに取り組むかとともに、次世代に向けた国土づくりのあり方について考える。

山田 邦博

国土交通省 近畿地方整備局長

◆プロフィール◆1984年建設省(現国土交通省)に入省。97年関東地方建設局甲府工事事務所長、09年関東地方整備局河川部長、12年水管理・国土保全局治水課長、14年大臣官房技術審議官などを経て、15年7月より現職。愛知県出身。

第3回 **6/25(土)** 海外で仕事をするときの最低限身に付けておくべき資質・素養とは

13:20~16:40

第1部 グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は?

コーディネーター

日本の魅力と真価を学ぶ集い『POSITIVE JAPAN®』主宰

◆プロフィール◆1967年㈱住友銀行(現 三井住友銀行)入行。支店長・部長・本店支配人等歴任後、1994年に㈱日本総合研究所へ。システム・コンサルティング両部門担当の代表取締役専務を経て、2004年三精輸送機(現 三精テクノロジーズ)㈱に。社長・会長を経て2015年退任。現在はPOSITIVE JAPAN®を主宰し、メルマガにて日本の魅力と真価を定期発信中。 ★本学出身者

第2部 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

パネリスト

野村ホールディングス㈱ 執行役員 グループ・インターナル・オーディット担当

◆プロフィール◆1992年鹿島建設(株)入社。主に関西地域での営業業務に従事。阪神大震災対応、大阪・京都駅前大型商業施設、真面目野開発、業務・研究施設等を担当。2013年より本社営業本部プロジェクト営業部、2015年より現職。京都府出身。学生時代は漕艇(ボート)部。

第3回 6/25(土)

海外で仕事をするときの最低限身に付けておくべき資質・素養とは

10:40~12:10

◆講義概要◆海外で働くことを希望する若者が減っているという。しかし、急速にグローバル化する世界では、日本を含む世界のどこにも様々な宗教、文化的背景を持った人たたくとまぐ付き合っていくことが今まで以上に求められている。ここでは自身の経験、失敗談も織り交ぜながら、グローバル化する社会で生きていくためには何を身に付けなければならないかを皆さんと一緒に考えていきたい。

上村 俊一

JAPIC 事業企画部 次長

◆プロフィール◆1992年㈱大林組入社。経理、財務、シンガポール営業所、社内監査等の各部門を経て、2015年よりJAPICに出向、現職。兵庫県出身。趣味は国内、海外の見聞を広めること、ピアノ。最近は、コンピュータのプログラミングを勉強中。

日本の農林水産業

13:20~14:50

◆講義概要◆TPP、FTAなどの国際交渉が進展する中、日本の一次産業はいかにあるべきか?世界の例を見ながら一次産業の成長戦略を考える。

末松 広行

農林水産省 農村振興局長

◆プロフィール◆1983年農林水産省入省。小泉官邸で内閣参事官、農林水産省では食料安全保障課長、政策課長、林野庁林政部長、関東農政局長等を歴任し現職。地方勤務は長崎県諫早市。著書は「食料自給率の「なぜ?」」(扶桑社2008年)など多数。食育、バイオマス・ニッポン、農産物輸出を提唱。埼玉県出身。中高の剣道部から大学時代は音楽に転向。

東日本大震災の被災地から

見えてきた災害復興の在り方

15:10~16:40

◆講義概要◆東日本大震災から5年が経過し、復興まちづくりを進めてきた中でみえてきた新たな課題について論じる。人口減少と高齢化社会が他の地域に比べて一層早い速度で進む被災地にあって、将来にわたり持続可能なまちづくりとはどうあるべきか。震災から得た教訓を改めて見つめなおし、今後起こりうる災害とそこからの復興の在り方を考える。

野田 武則

釜石市長

◆プロフィール◆2003年に岩手県議会議員に初当選。07年に釜石市長に就任し現在3期目。東日本大震災以降、市の復興復興にあたるとともに、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会の会長として被災した岩手県沿岸地域全体の復興と、持続可能な地域づくりに向けて活動中。11年～12年 中央防災会議専門調査会委員、13年～14年 被災者に対する国の支援の在り方に関する検討会委員。趣味は読書。

第4回 7/2(土)

1. 総合商社の活動内容

10:40~12:10

2. 少子高齢化問題にどう対応していくべきか

◆講義概要◆総合商社のビジネスについて具体例を挙げながら説明するとともに、日本がこれから直面する少子高齢化を取り上げ、特に雇用の面から人口減少社会における女性、高齢者、外国人労働者の活用について、わが国が進むべき方向を考える。

島崎 豊

丸紅株式会社 執行役員 秘書部長 兼 広報部長

◆プロフィール◆1982年丸紅(株)入社。海外におけるインフラ施設の建設および投資事業に従事し、特に上下水等の水ビジネスを先がけて推進。経営トップの財界・社外活動の補佐業務や社業の広報活動に従事。日本創生委員。慶応義塾リーディング大学院特任教授。東京都出身。学生時代:体育会グランドホッケー部所属。趣味:スミミング、ゴルフ。

ASEAN大市場統合と日本

13:20~14:50

◆講義概要◆日本企業の進出が相次ぐ東南アジア諸国連合(ASEAN)地域は、日本の成長の行方を左右する重要なエリアになっている。ASEANを軸に日中韓、インド、豪州NZによるFTAを核とする地域統合が広がってきたが、今後、TPPも含めて東アジア統合はどう展開していくかを探る。ASEANが抱える「中進国の罌」など成長のリスクも解説。日韓によるASEANでのソフトパワー競争(国家のブランド戦略)の優劣も解説する。

深沢 淳一

(株)読売新聞東京本社 ブランド企画部長

◆プロフィール◆1987年読売新聞入社。主に経済部で経産省、財務省、外務省、経企庁、国交省、総務省などの主要経済官庁や民間企業を取材。経済部、国際部のデスクも担当。シンガポール特派員(アジア経済担当)、バンコク特派員、アジア総局長と計約6年半にわたりASEANに駐在し、ASEANを中心とする東アジアの政治・経済・社会の動向を取材してきた。福岡市出身。趣味は旅行。

世界政治と経済の様相が益々

流動化する中で、日本企業の国際戦略は?

15:10~16:40

◆講義概要◆唯一のスーパーパワーとして政治的・経済的に世界に君臨してきた米国の影は薄くなりつつあり、世界は益々多様化と流動化の度合いを深めている。今後少子高齢化の大きな波が押し寄せる日本に成長戦略は描けるのか、グローバル社会で勝ち抜く事は出来るのか、課題は何か、共に考えてみよう。

田邊 弘幸

双日(株) 顧問 神戸大学東京六甲クラブ 副理事長

◆プロフィール◆1968年日商岩井㈱入社。日商岩井・双日を通して、エネルギー金属資源部門長・専務執行役員、代表取締役副社長・米州総支配人などを歴任、2011年双日(株)顧問に就任。1998年ハーバード・ビジネススクールAMP修了。日本創生会委員。三重県伊勢市出身。趣味:音楽鑑賞。室内楽を好む。最近なぜか男声合唱団に入団、呻吟を重ねながらもその魅力に取りつかれたっつある。 ★本学出身者

第6回 7/23(土)

総括【13:20~14:50】

◆講義概要◆連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

試験【15:10~16:40】

丸川 裕之

JAPIC 専務理事・事務局長

◆プロフィール◆1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界、官界の方々幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

第5回 7/9(土)

自動車のグローバル化と鉄鋼業

10:40~12:10

◆講義概要◆ボディ、骨格、エンジン、トランスミッション、足回り、、などなど、自動車のいたるところに使用されている鋼材はクルマの基本性能に深く関わっている。ダイナミックな産業連携による新たな価値の創出こそ、日本のものづくりの強みと考える講師が、自動車と鉄の深く長い関わりについて、現場第一線から実態を解き明かし、グローバルな競争の中での今後のあり方を考察する。

赤松 将雄

新日鐵住金(株) 参与 名古屋支店長

◆プロフィール◆1983年、新日鐵(株)(現新日鐵住金(株))入社。営業、人事、総務部門を経験し、2014年より現職。ものづくり産業が集積する東海地区で、自動車向けを中心に鋼材営業の第一線に立つ。単なる売り買いを越え、お客様と一体となって商品価値を上げる取り組みを通じ、新たな発見と出会い、そして自らの成長に魅力を感じている。趣味はスキー、ドライブ(車好き)など。神戸市生まれ、大阪市育ち。 ★本学出身者

日本の安全保障環境と防衛政策

13:20~14:50

◆講義概要◆国際テロ組織の活動の活発化・拡散、力を背景とした現状変更の試み等、安全保障上の課題や不安定要因は、複雑かつ多様で広範にわたっており、一国のみでの対応はますます困難なものになっている。そのような中、我が国は、新しい安全保障・防衛政策によってどう対応しようとしているのか。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながら分かり易く解説したい。

鈴木 敦夫

防衛省 防衛政策局 次長

◆プロフィール◆1985年防衛庁入行。米国防大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長(兼)大臣官房審議官などを経て現職(いずれも当時の名称)。

メディア融合とデジタルコンテンツ戦略

15:10~16:40

◆講義概要◆デジタルテクノロジーの進展がもたらしたメディア融合は情報伝達の形を大きく変えました。特に人々の「テレビ」との接し方は大変革の局面を迎えており、国内のテレビ局も重い腰を上げ、無料見逃し配信サービスをはじめするなど、コンテンツ戦略が最重要課題となっています。こうした最新動向を概観し、メディアコングロマリットを形成する米国型の戦略にも触れて、メディアのあり方について考察するきっかけにしてほしいと思います。

脇浜 紀子

讀賣テレビ放送(株) 編集局コンテンツビジネスセンター コンテンツ事業部副部長

◆プロフィール◆神戸大学法学部卒。1990年読売テレビ入社。アナウンサーとして「ズームイン!朝!」「ミヤネ屋」などを担当。2000年南カリフォルニア大学修士。2010年大阪大学大学院国際公共政策博士。著書:「テレビ局がつぶれる日」(2001、東洋経済新報社)、「ローカルテレビの再構築～地域情報発信力強化の視点から」(2015、日本評論社)。趣味はスキューバダイビング。 ★本学出身者

社会基礎学 推薦文 (平成27年度受講生より)

■ 国際文化学部1回生

このリレー講座のテーマに「グローバル人材に不可欠な教養」とあり、同世代の他学部の学生も外に関心があるだろうかと最初は思いました。しかし、質疑応答では「留学には興味がない」という意見が出て驚きました。国際文化学部では留学を志す友人が多くいて、それが当たり前だと認識してしまっていたのだとその時気づきました。構成人員が異なる授業で意見を交わすのはとても有意義なことだと思います。

■ 国際文化学部1回生

私は社会基礎学の講義を通して、日本の第一線で活躍されている素晴らしい先生方のお話を聞くことができ、様々な分野の知識を吸収することができ、今までまだまだ遠いと思っていたけれど、少し不安に思っていた自分の就職や将来の仕事についてのイメージをより掴むことができたのではないかと思います。私が最も魅力的に感じたのは、目の前で講義をして下さった国会議員の内閣府にいる西村康稔先生や、防衛庁の鈴木敦夫先生など、私が社会人になったら一度も話せないだろうなと思えるような高官の方や大企業の執行役員の方に質問する時間をとっていただけただけです。私は何人かの先生に質問させていただきました。どの先生方も本当に丁寧に、豊富な知識で私の些細な疑問に答えて下さいました。私は、学生だからこそ何の肩書きもないので、自分の興味のあることに対し自由に質問できることは今しかない貴重なことだと思います。

■ 発達科学部1回生

本講義は、多岐に渡って活躍する先生方の話を聞くことができるというのが最大の魅力である。その一つ一つが全く異なる分野であり、毎回新鮮な知識を得ることができる。また、先生方は「グローバル化」という共通の意識のもと、お話し下さるので改めて「グローバル」ということを考えることができる講義でもある。グローバル化が最早当たり前になっている現代、「グローバル化」とは何かを土曜日を使って考えてみてはどうか？

■ 法学部1回生

正直にいうとこの講義は土曜日なので、貴重なお休みは削られるし、眠くなって辛いと思います。しかしながら、この講義を担当して下さる方は皆さん普段普通に暮らしていて会うのはなかなか難しい人ばかりです。皆さん経験豊富で、私のような1回生にも色々なお話を理解しやすいように話して下さいます。これは非常に貴重な経験だと思います。大学生になり、周りに留学生がたくさんおり、高校生の時よりグローバル化というものや、多様な考え方というものを身近に感じます。それでもまだまだ視野の狭さを感じます。この講義と受けると、今まで見えなかったものが見えるようになるかもしれません。

■ 法学部1回生

まず率直にこの授業を受けてよかったと思いました。高校のときにも卒業生として著名な方々が来て講義をして下さいましたが、神戸大学のこの授業では「グローバル化」や「学生はどんな教養・技術を身につけるべきか」という統一したテーマを設けており、学生がどのような姿勢で聞けばよいかハッキリしていて、より関心の高い講義になっていたと思います。自分は法学部で、政治・政策について大変興味がありますが、政治家の方や省庁の方などの生の声を聞けて良い経験になりました。私たちの知らない世界の実状を聞いて、自分の役立つものとなりました。

■ 農学部1回生

初めは講義についていけるかという不安でいっぱいでした。しかし、どの回の講義においても、講師の方がとても分かり易く説明してくださり、普段あまり馴染みのない分野に関しても興味をもつことができました。また、日本の世の中について、知っておくべきことがたくさんあることに気づき、今では毎日新聞を読むように心がけています。こんなにも幅広い分野にわたり、日常生活では知り得ない裏事情まで面白く学べる機会は、この社会基礎学をとる以外にはありません。聴講だけでも可能なので、皆さんも是非子の講義を受けてみてください。

■ 工学部1回生

基本的にこういった内容が必要となってくる、こういう内容に興味関心を持っているのは経済、経営、法など文系の方々だと思います。ただ、グローバル化の時代と呼ばれる今、世界の中での日本という国については、どこで働くにしても知っておいた方がいいことであると思います。また、日本の状況、日本が今どんな状況にあって、これからはどんな産業で勝負できそうで、こういうところが強い弱いというのを知るのは単純に面白いです。やっぱり自分の住んでいる国だけあって何かと気になってしまうのだと思います。どの講義でも連盟や企業の役員さんや理事であったり、参議院の方や内閣の方など、普段お目にかかれなような人に直接質問することができます。こういった場で質問するのが苦手な人も、容赦ない質疑応答を聞くだけでも楽しめると思います。

■ 工学部1回生

様々な分野の最前線で活躍される方々の生の講義が聞けました。正直な話、これだけの数、かつ各分野のトップの方々のお話を聞ける機会はそうないと思います。貴重な機会なので、是非参加すべきだと思います。自分は工学部に所属しています。しかし、一番面白いと思ったのは金融の話でした。銀行や資本の仕組みがよく分かりました。この講座を受けていなければ知らなかったと言ってしまう気にもしない分野の話でした。この講座をとって良かったなと思ったことのひとつです。神戸大学出身の方々もいらっしゃいました。自分のこんな場で講義できる人材になりたいなと思いました。電車の広告や大学のホームページでよく見る「グローバル人材」がテーマの講座なのですが、まだまだ僕には大きなものに思えます。しかし、講座を受ける前と受けた後とは「グローバル人材」のイメージや理想像が変わりました。是非この講座はとるべきです。

■ 海事科学部1回生

海事科学部の学生であるため、2回生になると六甲台を離れて深江キャンパスで専門科目に集中することになります。そのため、六甲台にいる1回生のうちに自分の視野を広げておくべきだと思い、受講にいたしました。実際の講義では、普段は大きな講演会に行かなければ聞けないような社会のトップリーダーの先生方のお話を聞くことができ、また、内容も政治から安全保障、金融まで様々なものがあり、自分の視野を広げるのに大いに役立ちました。視野を広げたい、トップリーダーの先生方や社会の最前線の話が聞きたいという方には本当におすすめできる講義です。

■ 農学研究科1回生

近年何かと目にする「グローバル化」。そもそもグローバル化とは何か？我々は何ができ、何をしなくてはいけないのか？まさにグローバル社会の先頭にいる各分野の方々はその疑問に答えてくれるような講義です。文系の人はもちろん、理系の人にとっても、グローバル社会においてどのような技術が求められるのか、自分の研究はどのように活かすことができるのかなど、多面的に考える良い機会となるのではないのでしょうか。

社会基礎学 推薦文 (平成27年度受講生より)

法学部1回生

神戸大学に来てよかったと思えた講座でした。まず、普通であればとてもお目にかかることはできない各部門の第一線で活躍している方々が講師としていらっしゃいます。(実際、先生方同士が出会いの場を楽しんでいらしたようにも見えました。)多忙な方々をこんな山まで呼んでしまえる神戸大学の力に驚きました。さて、講義の内容ですが、「グローバル人材に不可欠な教養」というタイトルではあるものの、グローバル化を礼賛するものではありません。「グローバル」というカタカナにとらわれずに、それでも自ずと世界と関わっているお話をうかがえます。グローバル化がそもそも何なのか分からない人のためにこそあるような講義もありました。土曜日に開催されてはいますが、その貴重な土曜日を各界の第一線の先生方が我々のために潰してくださる有難い講義です。色々なお考えをお持ちの先生がいらっしゃいます。様々な視点を学べるいい機会だと思います。

経済学部1回生

毎回講義をして頂くのは皆各業界で活躍しているリーダーばかりで堅苦しい講義になるだろうなと想像していましたが、実際は正反對なものでした。講義はいつも明るくて、学生とのやりとりも必ずあります。講義はPPTに沿って行われるが、他にも様々なことを話してくれました。仕事をしている中で実際にあった事や、これまでの人生経験を聴いていくうちに、大人社会へのイメージがよりクリアで現実味があるものになりました。まだ大学に入りたてで、毎日の勉強が将来にどう繋がるのか、未来キャリアをどう描けば良いのか、それを実現するために今日からこつこつできることは何か分からない中で、この授業に出会うことができ本当に良かったです。この講義を受けて、日々の勉強に意義を見出し、積極的になりました。1回生の皆さんにぜひ受けてほしいです。

経済学部1回生

当講義を聴講して感じた率直な感想としては、講師の方々、受講生共にレベルが高いというものであった。プレゼンでは各界の講師が様々な観点からグローバル化について考察しており、プレゼンを通して多種多様な知識や考え方を吸収することができたように思う。しかし、何より私にとって一番大きな収穫はレベルの高い人たちに囲まれて講義に参加することで大いに刺激を受けたことであつたように思う。本講義を受講して確実に私の学習意欲、知的好奇心は高まった。グローバル化について興味が無い人であっても参加すると有意義な時間になることは間違いないと思う。

経営学部1回生

この講義は、現在、社会のあらゆるところで活躍なさっている方々が、リレー方式で順番に講義して下さるという特殊な形式がとられています。それぞれの専門の方が、現在のことを話して下さるので、学生という枠の中にいる私にとって、とても刺激のあるものでした。たくさんの視点や価値観を学べるので、受ける価値のある講義だと思います。

医学部1回生

私は、シラバスに「産業界・官界、政界のトップリーダーがリレー講義を実施」という記載に惹かれ、本講義を受講することを決めました。トップリーダーと言われる方々の講義は、全てが面白く興味深いものでした。また、最新の情報を教授されますので、日本の現状を知ることができ、今後の各分野の動向も気になるようになりました。本講義は「社会基礎学」の名の通り、「グローバル化」に必要な社会基礎を知り、自分の視点をより深めることのできる講義だと思います。学べる時間がある今、ぜひ聴講したほうが良い講義だと感じました。

医学部1回生

医療系の分野で働くことを目指す者ですが、社会に向けて広い視野を持ちたいと思い、この講義を受講することに決めました。様々な分野の第一線で働く方々を講師としてお招きし、グローバル化についての講義を通じて、様々な角度から世界を見つけていきます。講義自体、各先生の工夫やメッセージの詰まった大変興味深いものですが、講義後の質疑応答やディスカッションも中身の濃いものです。学部、学科は違えど、同世代の人たちの意見や考え方に自分にはないものを感じてハッとさせられることが多かったです。この講義には、ほぼ全ての学部から聴講者が集まっています。また、附属中等学校の生徒さんも受講しています。良い刺激を受けることができると思いますので、興味のある方は受講を考えてみてはどうでしょうか。「グローバル人材」になるための第一歩を踏み出せるはずですよ。

医学部1回生

この講義では、様々な専門性を持つ講師が講義をしてくださいますが、1、2回生の教養を学ぶときに他の専門の話聞いてディスカッションするのは自分の視野が広がる良い機会ではないでしょうか。また、この講義は一貫してグローバル化とは何かについて学び考えます。グローバル化について何かしら意見を持っている方が多いと思いますが、もしかしたらこの講義で考えが変わるかもしれません。また、考えは変わらなくとも、新たな気づきを得ることもあるかもしれません。ぜひ、土曜日のこの講義で「グローバルとは何か?」について学び、考えてディスカッションしてみませんか?

理学部1回生

理系に身を置きながら、社会の第一線で活躍されているの方々による講演を聴き、直接質問ができるという機会いはそうそう無いと思います。興味はあるけれど時間が無いという方は、とりあえず単位を得るために履修してみましょう。得られるのは単位だけではないはずですよ。受講する前に悩む必要はありません。

理学部1回生

私は理学部なので、政治や社会に関する授業はほとんどありません。だから、この授業は普段触れない分野に触れることができました。話を聞く前は、この分野興味ないなと思っていたこともありましたが、話を聞いてみると、色々な経験をされてきた先輩方のお話は興味深かったです。考えたこともなかったことを考える機会になったり、興味のなかったことに興味を持てるきっかけになりました。自分の視野の狭さも痛感しました。私は履修せずに聴講していました。全部の授業に出るのは面倒だという人も少しでも参加してみると自分の将来の選択肢を増やすことができるかもしれません。

農学部1回生

多岐にわたる分野の先生方が来られるので、この社会基礎学という講義は大学生によくある自身の専門分野の観点でのみ物事を捉えがちな考え方を、様々な視点で見つめ直せるようになる絶好の機会だと思います。また、大学生にとって、社会人の先輩とは2〜3歳上、高くとも5歳上程度でしょうが、この講義の先生方は第一線で戦っておられる社会である程度のキャリアを積んだ方々なので、そのような方々と意識を共有できるのもこの講義の魅力だと思います。休日の講義なので、多少ハードルは高いですが、受講して絶対に損はしないと思います。